

令和2年度 総務委員会 視察研修報告書

1. 視察日程 令和2年12月17日(木)

2. 視察先及び視察内容

(1) 神山地区生涯学習センター

(2) 御殿場市立西中学校樺山館

3. 参加者

委員長	小林 恵美子			
副委員長	高木 理文			
委員	勝又 英博	本多 丞次	中島 宏明	
	神野 義孝	勝間田 幹也		
事務局	鈴木 秋広	(事務局長)		
事務局	佐藤 歌愛	(議事課課長補佐)		

4. 視察先対応者

神山地区生涯学習センター運営関係者 3名

西中学校長・教育総務課長ほか

## 5. 視察内容

### ■ 『神山地区生涯学習センターについて』

#### 《視察研修の目的》

「神山幼稚園」閉園後の跡地利用として開設した「神山地区生涯学習センター」の活動の様子を研修させていただき、成果や課題をご教示いただく。地域住民の生きがいがづくり及び施設運営の資とする。

#### 《視察先の概要》

市内



#### 《視察内容》

昭和34年に開園してから61年間地域に愛されてきた神山幼稚園の跡地を活用し、神山地区生涯学習センター「くすのき」として令和2年5月10日コロナ禍であったが人数を絞り開所式が実施された。現在7教室（音楽関係の練習、ヨガ教室、学童クラブ、不登校の家族を支える教室など）が利用、活動中。地域の人から2,000冊以上の書籍が寄せられて図書館が整備され、子どもたちの遊び場もあり、幅広い年齢を対象とした生涯学習の場となっている。

150年の歴史がある施設の名前の由来となった庭園の巨大な「くすのき」は、近々、御殿場市の景観重要樹木に登録される予定。



## 《考 察》

コロナ禍での開所であり、利用状況は十分とはいえないが、地域の交響楽団や育児相談の場として利用されている。特に、学校に行きにくい児童生徒をかかえる保護者を対象とした情報交換、相談の場としての取り組みがされていることは大切であると痛感した。

しかしながら、運営管理費を含む地域ボランティアに頼らざるを得ない状況であり、設備を有効に活用し利用者の便宜を図るためには、常駐スタッフの確保は欠かせないとする。今後、持続可能な有効活用運営の為には、地域の協力及び市の助成（運営・管理費等）を含む、さらなる創意工夫が必要であることを確認した。

少子化等に伴い、今後、公共施設の閉園・閉鎖が考えられるが、その後の施設利用について参考になる事項が多かった。

## ■ 『御殿場市立西中学校樺山館について』

### 《視察研修の目的》

樺山資紀伯爵の別荘跡地に建設された御殿場市立西中学校が改修するにあたり、多目的ホールとして設置された『樺山館』を視察・研修し、これまでの経緯（歴史）を学ぶとともに、その建設の背景や今後の活用方法などについて知見を得る。

### 《視察先の概要》

市内

## 《視察内容》

樺山資紀伯爵は薩摩藩出身、海軍大臣、初代台湾総督などを務め、晩年の明治39、御殿場の中畑に別荘「瑞雲荘」をかまえた。その跡地に昭和38年度に御殿場市立西中学校が建設された。西中学校の敷地内には「樺山の森と池」があり、歴史ある土地である。

今回、令和2年2月10日改築事業が完工し、歴史や文化の発信の場、地域住民の学習の場、生徒とのふれあいの場として、より充実した多目的ホール「樺山館」が設置された。

樺山館はその樺山伯爵家と当地の係わり、西中学校区の歴史や文化財を実物展示、映像資料展示をすることで紹介している。また、この資料館は、地域の歴史、御殿場市の歴史の一端を広く情報発信する施設にもなっている。



## 《考 察》

学校の歴史を継承し後世に伝えていくためにも、「樺山館」が設置されたことは意義深いと感じた。地域の歴史資料館のような立派な施設であり、西中学校地域だけでなく、当市の歴史の一端を、現物展示や映像展示を通じて知ることができる。また、樺山資紀伯爵だけの展示だけではなく、この地に縁のある気象学者の野中到氏の紹介や卒業生の日本画家湯山東画伯の作品も展示されており、「いだてん」の金栗四三の色紙も貴重で話題性のあるものだ。

別荘は樺山館と庭が対となっているので、庭の整備により更に文化的価値が増すと思われる。来訪者の感想を集約すれば、今後当市で建設する資料館の展示方法の参考になろう。

多くの市民にも訪れてもらえるような体制や工夫は必要である。

今後は、御殿場市立西中学校の良好な点を他の中学校においても取り入れられる事項について推奨・提言するとともに狭隘・老朽化する他の中学の整備計画提言の資とする。